

# 平経盛隠棲伝説の地 落折集落のご案内

**落** 折集落は若桜町の東端、兵庫県と県境を接する戸倉峠の中腹に位置します。平成25年現在の戸数は15で、全戸が「平家」姓を名乗っています。明治以前は「平」姓を名乗っていましたが、明治初期に平民の苗字使用が許可された際に「平家」姓に変えたといわれます。また「落折」という集落名も以前は「落居」と表記していましたが、明治初期に現在の「落折」に改称されたといわれています。

全国各地には源平合戦で敗れた平氏の落武者達が源氏の追っ手から逃れ、隠れ住んでいたという地が多く存在します。この落折には平経盛(たいらのつねもり)とその配下20余名が逃れ、平氏再興の時機を狙っていたという伝説が残されています。

平経盛は平忠盛(たいらのただもり)の子で、清盛とは異母弟にあたります。武将としても優秀でしたが、父忠盛と同じく詩歌に通じ、管弦の名手という別の一面も持ち合わせていました。壇ノ浦の戦いで敗れ、入水したといわれていますが、その後陸に上がり、集落奥の窟屋に隠れ住んでいたといわれています。

現在も集落内には経盛が隠れ住んでいた洞窟や馬かくしの谷、経盛の墓と伝わる宝篋印塔(ほうきょういんとう)が残され、人々によって大切に守られてきました。このうち経盛隠棲の洞窟は巨大な岩窟が幾重にも重なり合い、あちこちに残るほら穴が抜け道のように見えるなど、隠棲の地としての雰囲気を出しています。

かつて集落には当時の落人(おちうど)の古文書や平氏に関する資料が多く残されていましたが、元禄年間(1688~1708)の火災によってそのほとんどが失われています。また、集落内の旧藤原神社には経盛愛用の甲冑が奉納されましたが、昭和13年に社殿が火災にあい、焼失しています。ただ、あるお宅の仏壇には「埋徳院殿深幽浄堅大居士」と刻まれた経盛の位牌や、経盛愛用の五人張り黒滋藤(くろしげどう)の弓の折れが伝わっており、鳥取市の天徳寺と高野山金剛峰寺のそれとともに弓の一部とされています。



平経盛の墓とされる宝篋印塔